



2014年度 決算

SGS2020 Rolling Plan

2015年5月12日
代表取締役社長 手代木 功



1. **2014年度 決算**
2. **2015年度 業績予想**
3. **SGS2020 Rolling Plan (2017年度目標)**
4. **質疑応答**

2014年度 決算の概要

2014年度決算サマリー

- ◆ 売上高および営業利益は、計画通り
 - クレストール:2社合わせて薬価ベース1,000億円を突破
 - ◆ 経常利益は、3年連続過去最高
 - ◆ 当期純利益は、過年度税金費用の引き当てにも関わらず前年を上回る着地
-
- ◆ 着実な開発パイプラインの進展、承認申請実施
(S-297995、S-649266、サインバルタ適応拡大など)
-
- ◆ 自己株式取得、増配による株主還元
 - ◆ たな卸資産の改善、遊休資産売却によるキャッシュフローの改善

経営成績（連結）



（単位：億円）

	2014年度 通期予想※	2014年度 実績	対予想	2013年度 実績※※	対前年	
			達成率 (%)		UP率 (%)	増減額
売上高	2,735	2,740	100.2	2,897	△5.4	△157
営業利益	495	504	101.7	619	△18.6	△115
経常利益	580	779	134.3	622	25.2	157
当期純利益	300	441	146.9	406	8.5	35

注：表記は億円未満を四捨五入

- 経常利益は、通期実績として3年連続で過去最高

為替レート(期中平均)	2014年度前提	2014年度実績	2013年度実績	対前年比較
ドル	105円	109.76円	100.18円	9.58円安
ユーロ	140円	138.69円	134.23円	4.46円安
ポンド	170円	176.68円	—	—

業績予想※との差異について

◆ 経常利益

- HIVフランチャイズ**の売上高拡大とともに、ViiV社からの2014年度配当金収入が当社の2014年度期中に確定したため、支払われる配当金収入が大幅に増加
- 円安による為替差益の発生

◆ 当期純利益

- 経常利益の増加に伴い業績予想を超過



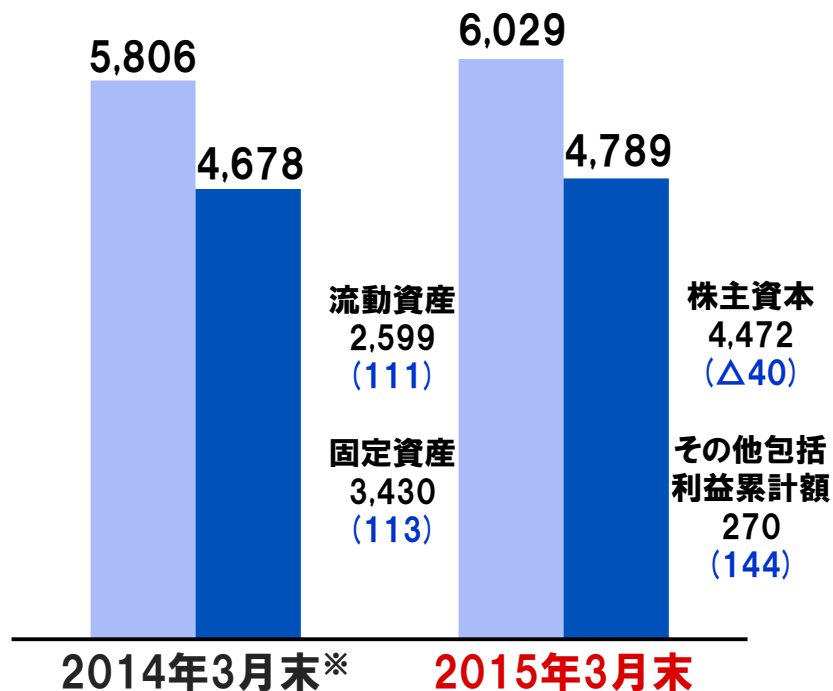
経常利益および当期純利益において業績予想を上回る着地

財政状態およびキャッシュ・フローの状況（連結）

◆ 財政状態

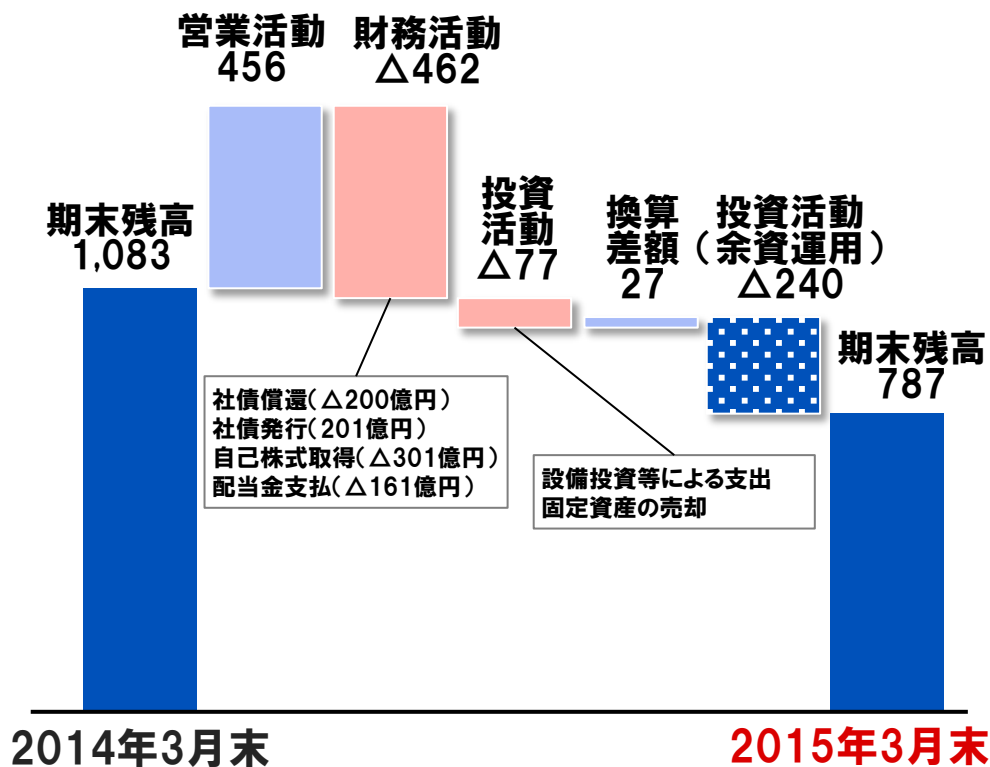
（単位：億円）
（前期比増減額）

■ 総資産 ■ 純資産



◆ キャッシュ・フローの状況

（単位：億円）



2014年3月末※

2015年3月末

自己資本比率

79.9%

78.7%

事業別・製商品別売上高（連結）

（単位：億円）

	2014年度		対予想		2013年度 実績	対前年	
	予想	実績	達成率 (%)	差異		UP率 (%)	増減額
国内医療用医薬品	1,635	1,614	98.7	△21	1,683	△4.1	△69
戦略3品目 合計	720	697	96.7	△23	663	5.0	34
戦略8品目 合計	993	958	96.5	△35	929	3.1	29
海外子会社 / 輸出※	298	287	96.2	△11	340	△15.8	△53
シオノギ Inc.	177	159	90.1	△18	214	△25.4	△55
Osphena	70	46	65.3	△24	11	315.8	35
C&O	75	69	92.3	△6	59	17.9	10
製造受託※	129	156	121.1	27	84	86.4	72
一般用医薬品	46	46	99.2	△0	45	1.1	1
ロイヤリティー収入	600	607	101.1	7	707	△14.2	△100
Crestor	490	474	96.8	△16	657	△27.8	△183
HIVフランチャイズ	—	58	—	—	—	—	58
その他	27	31	113.6	4	38	△19.6	△7
合 計	2,735	2,740	100.2	5	2,897	△5.4	△157

戦略8品目： Crestor、イルベタン類、サインバルタ（以上、戦略3品目）、オキシコンチン類、フィニバックス、ディフェリン、ピレスパ、ラピアクタ

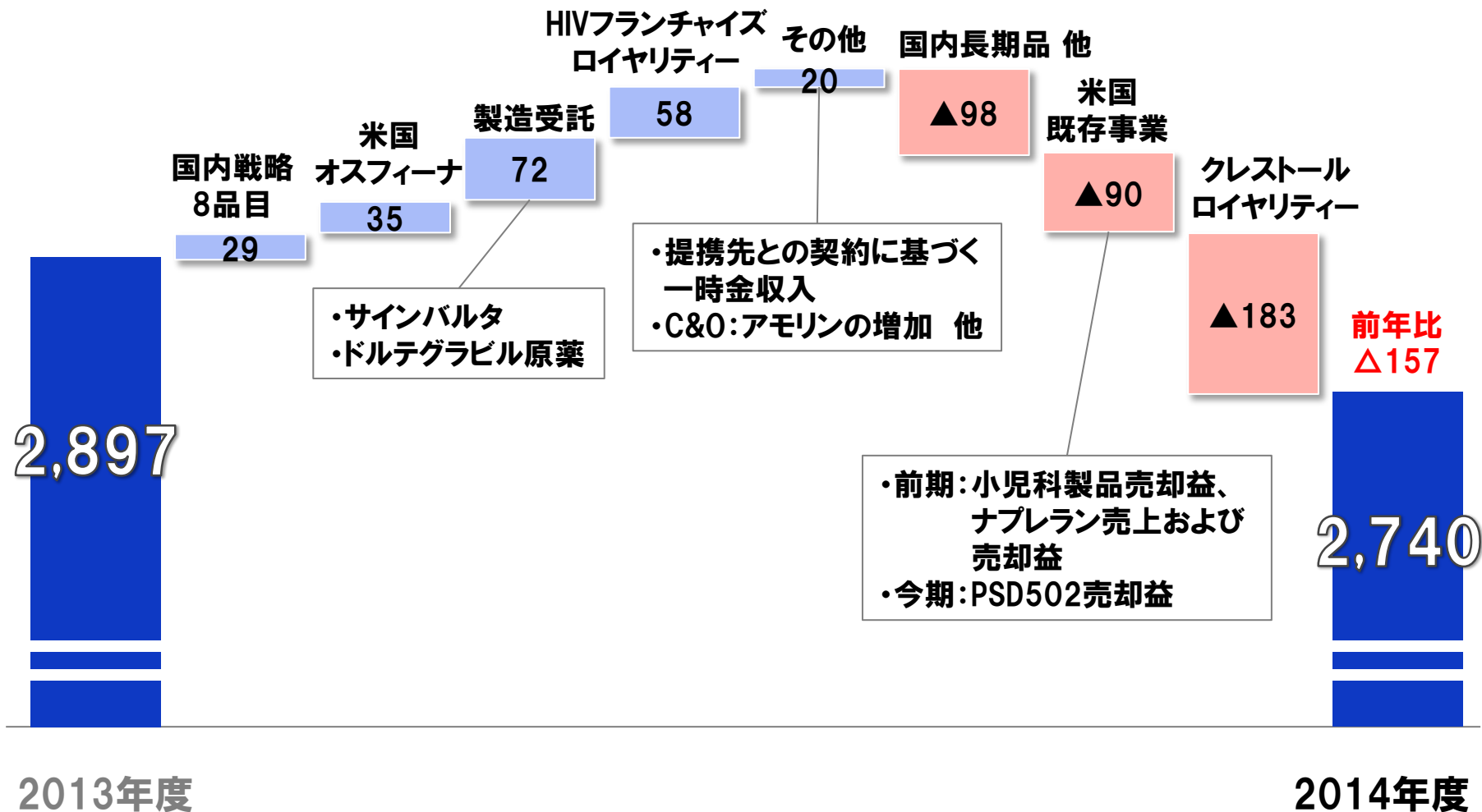
国内：戦略品目売上高

(単位：億円)

	2014年度		対予想		2013年度 実績	対前年	
	予想	実績	達成率 (%)	差異		UP率 (%)	増減額
国内医療用医薬品	1,635	1,614	98.7	△21	1,683	△4.1	△69
クレストール	426	436	102.3	10	411	6.1	25
イルベタン類	165	151	91.6	△14	139	9.1	12
サインバルタ	129	109	84.8	△20	114	△4.0	△5
戦略3品目合計	720	697	96.7	△23	663	5.0	34
オキシコンチン類	107	103	95.9	△4	106	△3.5	△3
フィニバックス	42	40	94.7	△2	47	△15.2	△7
ディフェリン	44	39	88.0	△5	44	△11.9	△5
ピレスパ	55	54	97.6	△1	48	11.6	6
ラピアクタ	25	26	105.9	1	20	30.6	6
戦略8品目合計	993	958	96.5	△35	929	3.1	29
(8品目売上高比率)	60.7%	59.4%			55.2%		

連結売上高の前年比較

(単位:億円)



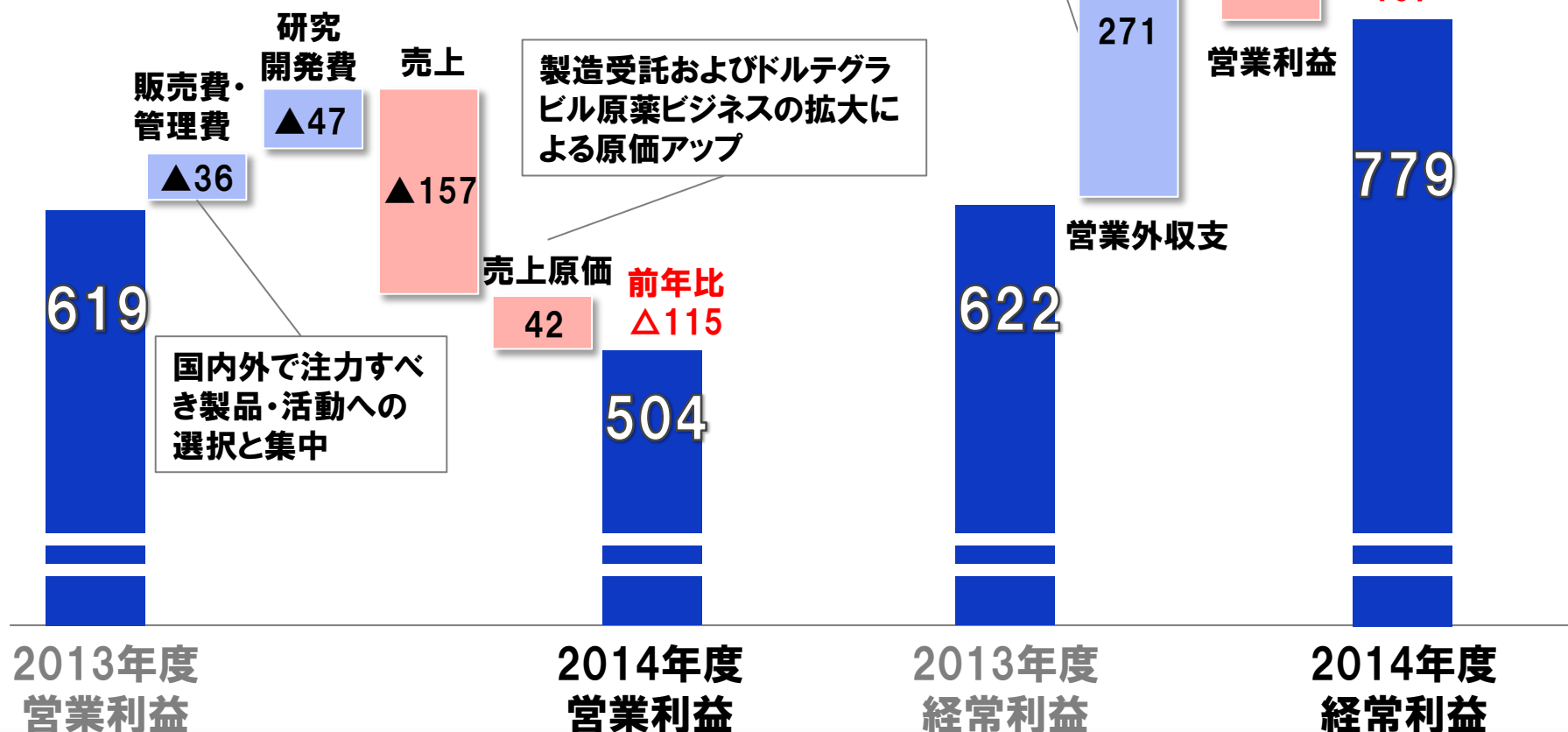
損益計算書（連結）

	2014年度		対予想		2013年度 実績	対前年	
	予想	実績	達成率 (%)	差異		UP率 (%)	増減額
売上高 (ロイヤリティー収入)	2,735 600	2,740 607	100.2 101.1	5 7	2,897 707	△5.4 △14.2	△157 △100
売上原価	28.7 (36.8) 785	30.0 (38.5) 822	104.7	37	26.9 (35.6) 780	5.4	42
売上総利益	1,950	1,918	98.4	△32	2,117	△9.4	△199
販売費・ 一般管理費	53.2 1,455	51.6 1,414	97.2	△41	51.7 1,498	△5.6	△84
販売・管理費	935	926	99.0	△9	962	△3.8	△36
研究開発費	520	489	94.0	△31	536	△8.8	△47
営業利益 (ロイヤリティー除く)	18.1 495 △105	18.4 504 △103	101.7 -	9 2	21.4 619 △88	△18.6 -	△115 △15
営業外収支	P85	P275	323.7	190	P4	-	271
経常利益	21.2 580	28.4 779	134.3	199	21.5 622	25.2	157
特別損益	P50	P42	83.4	△8	P10	333.1	32
税引前利益	630	821	130.2	191	632	29.9	189
法人税等	330	380	115.1	50	226	68.3	154
当期純利益	300	441	146.9	141	406	8.5	35

注：（）内はロイヤリティー収入を除外した売上高に対する売上原価の割合

- ・優先順位付けの一層の明確化
- ・恒常的に発生する経費の見直し
- ・NovaQuest社との共同開発

- ・ViiV社からの配当
金収入増
- ・円安による外貨建
て資産の評価益



主な開発品の2014年度成果

開発品		2014年度成果
トリーメク®(ドルテグラビルナトリウム/アバカビル硫酸塩/ラミブジン)※	HIV感染症	日米欧 他6ヵ国:承認
Senshio® (ospemifene)	閉経後膣萎縮症	欧州:承認
S-297995 (naldemedine)	オピオイド投与による副作用緩和	グローバル:Phase III、COMPOSE I 試験開鍵
S-888711 (ルストロンボパグ)	血小板減少症	日本:申請 グローバル:Phase III開始
S-649266	重症細菌感染症	グローバル:Phase II開始
S-718632 (hydrocodone)	慢性疼痛(ハイドロコドン乱用防止徐放製剤)	米国:Phase I開始
S-524101	ダニ抗原によるアレルギー性鼻炎	日本:承認
サインバルタ®	線維筋痛症に伴う疼痛	日本:申請(2015年4月 部会通過)
サインバルタ®	慢性腰痛症に伴う疼痛	日本:申請
サインバルタ®	変形性関節症に伴う疼痛	日本:Phase III開始
S-588410	食道がん	日本:Phase III開始

SGS2020 初年度としての総括

**国内クレストール
両社で1,000億円**

アライアンスメーカーとの協業
体制におけるモデルケース

**HIVフランチャイズ
の成長**

ロイヤリティー、配当金収入の拡大

**国内・グローバル
パイプライン
の価値向上**

サインバルタの適応拡大
S-888711の国内申請
S-297995の後期グローバル開発

**海外事業における
Capability強化**

Osphenaの売上アップ
Senshioの欧州承認

**たな卸資産の改善
遊休資産売却**

上記のキャッシュフロー改善: 約130億円
たな卸資産回転月数: 7.4→6.5ヵ月

**株主還元
(成長を共に実感)**

自己株式取得、増配

培った3つの強みと克服すべき3つの課題

強み①

国内における
販売アライアンス体制
の進化

強み②

世界で戦える創薬力
と柔軟なパートナー戦略

強み③

組織風土として根付いた
コストマネジメント意識

今後の経営課題

課題①

基盤となる
国内ビジネスの強化

課題②

グローバル新製品
の育成力向上

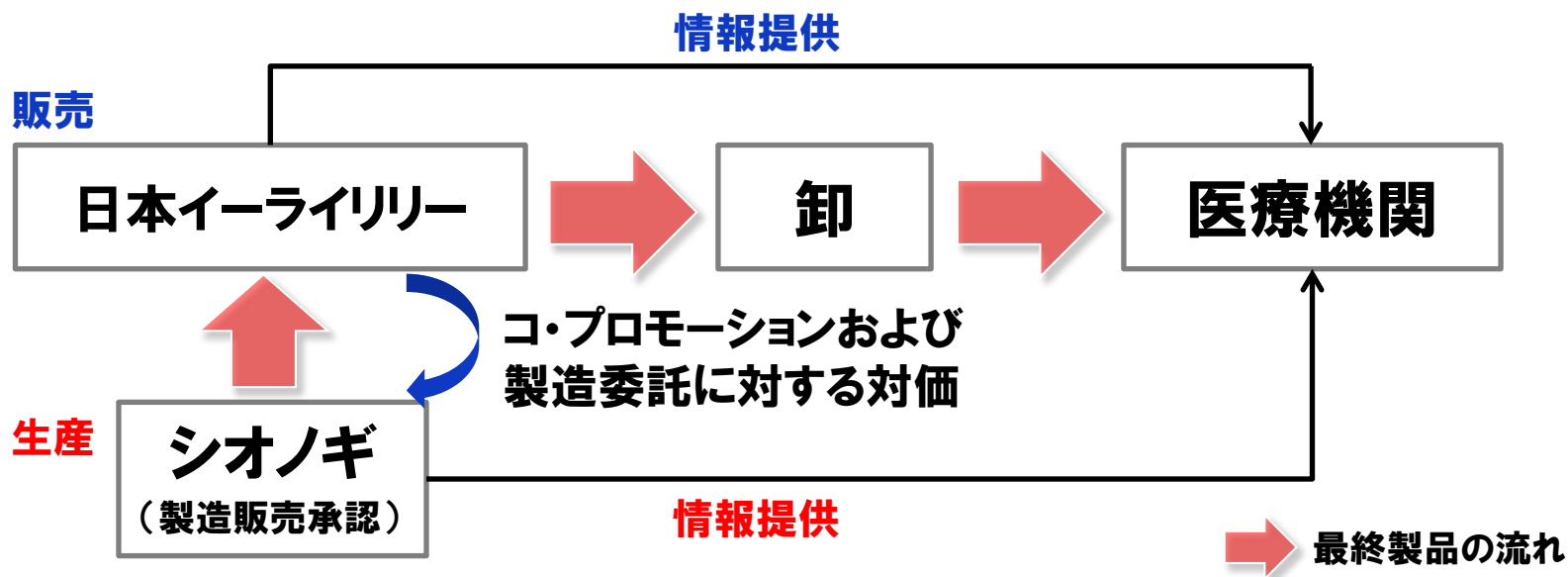
課題③

ロイヤリティーに
依存しない経営体制
の構築

2015年度 業績予想

サインバルタの契約枠組みの変更

- ◆ 1ブランド 2チャネルから1ブランド 1チャネルに変更(販売ルートは日本イーライリリー社に1本化)
- ◆ 情報提供活動はこれまでどおり両社協業で実施し、シオノギはコ・プロモーションに伴う対価を受け取る
- ◆ シオノギが生産を行い、日本イーライリリー社に最終製品を供給し、対価を受け取る



契約枠組みの変更による財務諸表上のインパクト

医療用医薬品 売上



増加

サインバルタの売上に対する
コ・プロモーションに伴う対価の受領

製造受託 売上



減少

製造委受託契約の変更

売上原価



減少

製造委受託契約の変更

販売費・管理費



増加

両社での情報提供活動の強化

業績予想（連結）

（単位：億円）

	2015年度予想		2014年度実績	対前年	
	通期	上期		UP率 (%)	増減額
売上高	2,960	1,380	2,740	8.0	220
営業利益	725	285	504	43.9	221
経常利益	795	280	779	2.1	16
親会社株主に帰属する 当期純利益	520	170	441	18.0	79

- 営業利益は、通期で2年ぶりの過去最高
- 経常利益は、通期で4年連続で過去最高を更新

注：表記は億円未満を四捨五入

為替レート(期中平均)	2015年度前提	2014年度実績
ドル	120円	109.76円
ユーロ	130円	138.69円
ポンド	175円	176.68円

事業別・製商品別売上高（連結）

（単位：億円）

	2015年度予想		2014年度 実績	対前年	
	通期	上期		UP率(%)	増減額
国内医療用医薬品	1,670	792	1,614	3.5	56
戦略3品目 合計	788	372	697	13.1	91
戦略8品目 合計	1,053	494	958	9.9	95
海外子会社 / 輸出※	304	148	287	6.0	17
シオノギ Inc.	174	90	159	9.1	15
Osphena	74	30	46	61.9	28
C&O	80	34	69	15.6	11
製造受託※	76	37	156	△51.3	△80
一般用医薬品	47	25	46	3.0	1
ロイヤリティー収入	833	365	607	37.3	226
クレストールおよび HIVフランチャイズ	745	320	532	39.9	213
その他	30	13	31	△2.2	△1
合計	2,960	1,380	2,740	8.0	220

国内：戦略品目売上高

(単位:億円)

	2015年度予想		2014年度 実績	対前年	
	通期	上期		UP率 (%)	増減額
国内医療用医薬品	1,670	792	1,614	3.5	56
クレストール	444	213	436	1.8	8
イルベタン類	170	82	151	12.4	19
サインバルタ※	174	77	109	59.0	65
戦略3品目合計	788	372	697	13.1	91
オキシコンチン類	107	53	103	4.3	4
フィニバックス	38	19	40	△4.5	△2
ディフェリン	38	19	39	△1.9	△1
ピレスパ	54	30	54	0.6	0
ラピアクタ	28	1	26	5.8	2
戦略8品目合計	1,053	494	958	9.9	95
(8品目売上高比率)	63.1%	62.4%	59.4%		

損益計算書（連結）



（単位：億円）

	2015年度予想		2014年度実績	対前年	
	通期	上期		UP率 (%)	増減額
売上高 (ロイヤリティー※収入)	2,960 745	1,380 320	2,740 532	8.0 39.9	220 213
売上原価	24.8 (33.2) 735	25.6 (33.3) 353	30.0 (37.2) 822		
売上総利益	2,225	1,027	1,918	△10.6	△87
販売費・一般管理費	50.7 1,500	53.8 742	51.6 1,414	16.0	307
販売・管理費	1,010	502	926	6.1	86
研究開発費	490	240	489	9.1	84
営業利益 (ロイヤリティー※除く)	24.5 725 △20	20.7 285 △35	18.4 504 △29	0.3	1
営業外収支				43.9	221
経常利益	26.9 795	20.3 280	28.4 779	-	9
				△74.6	△205
				2.1	16

注：（）内はクレストールおよびHIVフランチャイズからのロイヤリティー収入を除外した売上高に対する売上原価の割合

※ クレストールおよびHIVフランチャイズからのロイヤリティーと定義

2015年度ビジネスプラン 達成に向けた取り組み

◆マーケティングモデル改革

- 顧客コミュニケーションの進化

- 患者軸でのトータルケアに関する活動の充実
- 顧客ニーズに応じたマルチチャネルモデルの構築

- MR一人当たりの営業利益の改善



糖尿病患者さんの
トータルケアを推進する活動



◆製品価値最大化

- 日本イーライリリー社との資源配分の効率化を図り、うつならびに疼痛の両領域においてサインバルタの早期最大化を目指す
- クレストールOD錠によるライフサイクルマネジメントの実施

グローバル新製品の育成功向上(米国事業)

◆オスフィーナ

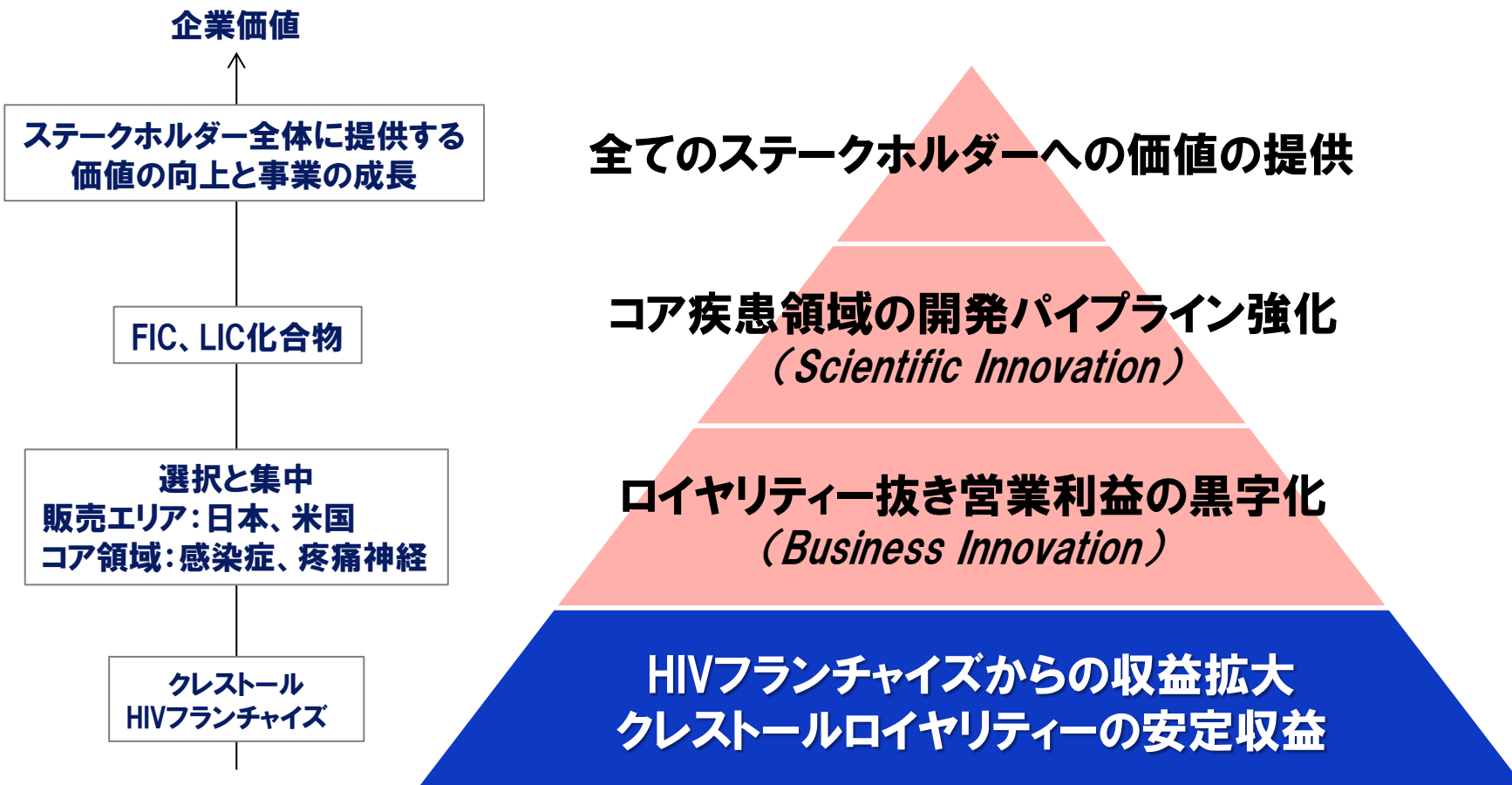
- 情報提供活動の進化
 - 治療効果を実感できるためのアドヒアランスの確保に向けたターゲットとメッセージの徹底
- 最大化への取り組み
 - 投資効果、リソース配分の検討

◆グローバルパイプラインの上市に向けて

- 疼痛および感染症領域への参入に向けた基盤整備

ロイヤリティーに依存しない経営体制の構築

◆ クレストール、HIVフランチャイズロイヤリティーを除く営業利益の黒字化の達成



株主還元について

利益配分等に関する基本方針

- ◆ 株主還元、成長への投資、戦略的事業投資のバランスをとりながら、企業価値の最大化を図る
- ◆ 自己株式の取得も含め、中長期的な利益成長を共に実感いただける株主還元施策を推進
- ◆ 2015年度配当は、1株当たり56円を予定

年度	1株当たり配当金			DOE	ROE
	中 間	期 末	年 間		
2013	円 銭 22.00	円 銭 24.00	円 銭 46.00	3.5%	9.2%
2014	24.00	(予定) 28.00	(予定) 52.00	3.7%	9.4%
2015	(予定) 28.00	(予定) 28.00	(予定) 56.00	—	(予想) 10.6%

SGS2020 Rolling Plan (2017年度目標)

創薬型製薬企業として成長する

2016年度目標に対する進捗



経常利益目標を前倒して達成

	2014年度 (実績)	2015年度 (予想)	2016年度 (計画)
売上	2,740 億円	2,960 億円	3,200 億円
原価率	30 %	25 %	25 %※
経常利益	779 億円	795 億円	750 億円
ROE	9.4 %	10.6 %	11.0 %

中核事業を進化させ、更なる成長軌道に乗せる

2015年度

2016年度

2017年度

2018年度

2019年度

2020年度

選択と集中

中核事業の進化

FIC、LIC化合物による成長

成長へのギアチェンジ

売上高 3,500億円

経常利益 900億円

ROE 12%

売上高 5,000億円

経常利益 1,250億円

ROE 15%

既存品最大化へのビジネスオペレーションの強化 と重点疾患領域の進化

国内事業

S-033188の申請
S-649266の後期開発
オキシコンチン適応症追加
オキシコンチン乱用防止製剤

S-297995の申請
ADHDパイプラインの申請

クレストールの最大化(OD錠)
サインバルタ適応拡大

クレストール 1,000億円
サインバルタ プロモーション枠組み変更

米国事業

S-649266、S-033188
の後期開発

S-297995の申請

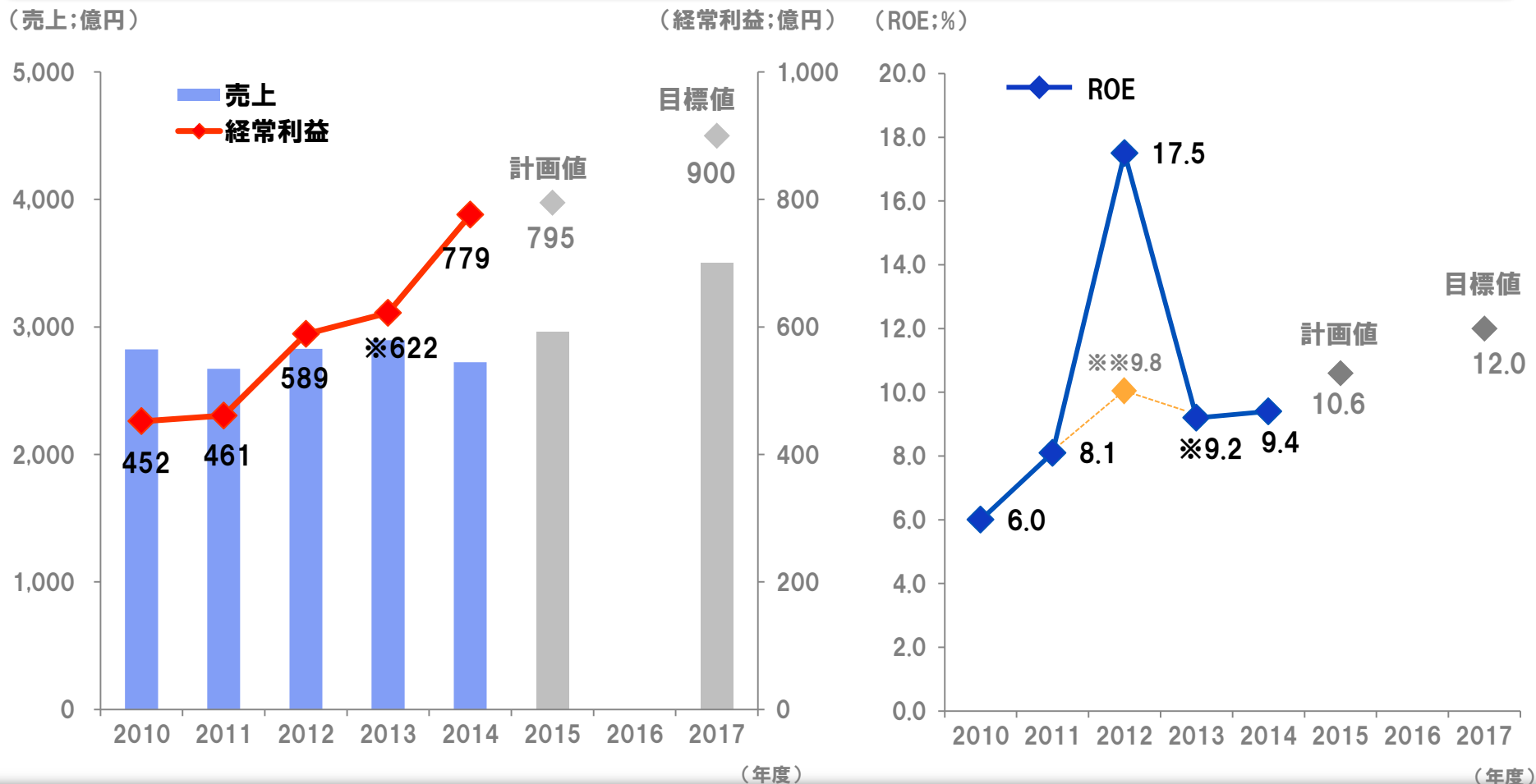
オスペミフェンの最大化
グローバル開発品の推進
戦略的事業投資の検討

オスペミフェンへの投資
コスト構造改革

2017年度目標に向けて



クレストール契約枠組み変更後も利益水準を落とすことなく成長



SHIONOGI ※ 2014年度より研究開発費(委託研究費)の会計処理方法を変更、当該処理の変更を2013年度の実績に反映
 ※※ 税金費用の減少を除く当期純利益ベースで補正した値

2017年度に向けた取り組み



定量目標

売上高 3,500億円

経常利益 900億円 ROE 12%

重要な 経営課題

- 国内事業における Crestor、サインバルタの最大化
- 米国事業における オスフィーナの収益改善
- コア疾患領域における パイプラインの強化
- ロイヤリティーに依存しない経営体制の構築

Appendix

- 開発品の進展 -

パイプラインの進展 (2014年度3Q決算発表以降)

開発品	薬効(剤型)	適応症	ステージの進展
S-033188	インフルエンザ治療薬 (経口)	インフルエンザ感染症	日本:Phase I
S-877503	非中枢神経刺激薬 (経口)	ADHD	日本:Phase II/III ⇒日本:申請準備中
S-718632	ハイドロコドン乱用防止徐放 製剤(経口)	慢性疼痛	米国:Phase I 準備中 ⇒米国:Phase I
S-117957	不眠症治療薬(経口)	不眠症	米国:Phase I
S-237648	ニューロペプチド Y Y5受容 体アンタゴニスト(経口)	肥満症	日本:Phase I ⇒日本:Phase II
S-524101	ダニ抗原特異的舌下免疫 療法薬	ダニ抗原によるアレルギー性鼻炎	日本:申請中(2014年4月) ⇒日本:承認(2015年3月)
S-888711 (ルストロンボパグ)	低分子トロンボポエチン受容 体アゴニスト(経口)	血小板減少症	グローバル:Phase II ⇒グローバル:Phase III
S-588410	がんペプチドワクチン(注射)	食道がん	日本:Phase III
トリーメク® (ドルテグラビルナトリウ ム/アバカビル硫酸塩/ ラミブジン)*	インテグラーゼ阻害薬/核酸 系逆転写酵素阻害薬 (経口)	HIV感染症	日本:申請中(2014年12月) ⇒日本:承認(2015年3月)
クレストール®	HMG CoA 還元酵素阻害薬 (OD錠)	高コレステロール血症	日本:申請中(2015年2月)

パイプラインの状況 (2015年5月現在)

	Phase I	Phase IIa	Phase IIb	Phase III	申請・承認
感染症	S-649266 (重症細菌感染症) グローバル:Phase II				
	S-033188 (インフルエンザ感染症) 日本:Phase I				
疼痛・神経	サインバルタ® (線維筋痛症に伴う疼痛)			日本:申請中(2014年6月)	
	サインバルタ® (慢性腰痛症に伴う疼痛)			日本:申請中(2014年12月)	
	サインバルタ® (変形性関節症に伴う疼痛)			日本:Phase III	
	S-297995 (オピオイド副作用緩和) グローバル:Phase III、日本:Phase III				
	オキシコンチン® (慢性疼痛における鎮痛)			日本:Phase III	
	S-877503 (ADHD)			日本:申請準備中	
	S-877489 (ADHD)			日本:Phase III	
	S-120083 (炎症性疼痛) 日本:Phase I				
	S-010887 (神経障害性疼痛) 日本:Phase I				
	S-718632 (慢性疼痛) 米国:Phase I				
	S-117957 (不眠症) 米国:Phase I				

赤字: 申請・承認取得
青字: Phaseの進展

パイプラインの状況 (2015年5月現在)

	Phase I	Phase IIa	Phase IIb	Phase III	申請・承認
代謝疾患	S-556971 (脂質異常症)		日本:Phase II		
	S-237648 (肥満症)		日本:Phase II		
	S-707106 (2型糖尿病)		米国:Phase IIa		
フロンティア	Ospemifene (閉経後膣萎縮症)				欧州:承認(2015年1月)
	S-524101 (ダニ抗原によるアレルギー性鼻炎)				日本:承認(2015年3月)
	S-888711 (血小板減少症)		グローバル:Phase III、	日本:申請中(2014年12月)	
	S-588410 (食道がん)			日本:Phase III	
	S-555739 (アレルギー性鼻炎)			欧州:POM、米国:Phase IIa、日本:Phase III	
	S-588410 (膀胱がん)		日欧:Phase II		
	S-646240 (加齢黄斑変性症)			日本:Phase IIa	
	S-488210 (頭頸部がん)		欧州:Phase I/II		
	S-222611 (悪性腫瘍)		欧州:Phase I/II		
	S-525606 (スギ抗原によるアレルギー性鼻炎)			日本:Phase I	

赤字:申請・承認取得
青字:Phaseの進展

パイプラインの状況 (2015年5月現在)

	Phase I	Phase IIa	Phase IIb	Phase III	申請・承認
＜導出品＞	トリーメク®(ドルテグラビルナトリウム/ アバカビル硫酸塩/ラミブジン)※ (HIV感染症)			米国:承認(2014年8月) 欧州:承認(2014年9月) 日本:承認(2015年3月)、その他6か国で承認	
	S/GSK1265744 LAP ※ (HIV感染症)			米国:Phase II	
	Janssen/シオノギ β-セクレターゼ阻害薬 (アルツハイマー病)			欧州:Phase IIa	
					赤字:申請・承認取得 青字:Phaseの進展

将来の見通しに関する注意事項



- 本資料において提供される情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらの文言は、現在における見込み、予測、リスクを伴う想定、実質的にこれらの文言とは異なる現実的な結論・結果を招き得る不確実性に基づくものです。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
リスクや不確実性は、特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制機関による審査期間や承認取得、国内外の保険関連改革、マネジドケア、健康管理コスト抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制など、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- 承認済みの製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を構築する能力を欠く状況、原材料の入手困難、市場の受容が得られない場合などが含まれますが、これに限定されるものではありません。
- 新しい情報、将来の出来事もしくはその他の事項により、見通し情報に更新もしくは改正が望ましい場合であっても、それを行う意図を有するものではなく、義務を負うものではありません。
- 本資料には、医薬品(開発中の製品を含む)に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。
- 本資料は国内外を問わず、投資勧誘またはそれに類する行為を目的として作成されたものではありません。
- 本資料の利用にあたっては、利用者の責任によるものとし、情報の誤りや瑕疵、目標数値の変更、その他本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。